

# 『真光寺川 里親の会』通信

2月号 一通算第83号

2008年2月10日

## 1月例会—神奈川県・内水面試験場見学

清

流にする会の1月例会は、毎年、新年会を兼ねて施設見学や里山散策を行っており、今年は正月気分も覚めやらぬ8日(火曜日)相模原市大島にある神奈川県・内水面試験場を見学した。当日は寒いながらも風はなく快晴の見学日和、特別参加の和光大学大学院生形山浩子嬢を含め一行14名が車に分乗して現地に向かい、10時30分頃、相模川河畔の試験場に到着した。早速、本館1階の見学者ルームで約1時間強、主任研究員の勝呂尚之先生から施設概要、希少淡水魚の保護増殖を目的とした試験・研究事例、特にミヤコタナゴ増殖技術確立の苦労話、ホトケドジョウのピオトープ展開、神奈川県地域固有遺伝子型メダカの保護飼育状況等についてお話を聞き、その後、場内の主要施設を案内していただいた。午後1時過ぎ、見学を終了し、すぐ近くの「相模川清流の里(相模原市の保養施設)」三階のレストランで豪華なランチ?を味わって(運転者に遠慮し、酒は控えめにした)2時過ぎ帰路に着いた。以下見学した主要点を報告する。



1

### 試験場の施設

約18,000㎡の敷地に本館棟の他、遺伝育種棟・生物工学試験棟・量産技術試験棟・飼料培養試験棟等が配置されそこでは、ワカサギ、ヤマメ、アユなどの食用魚の増殖・育成技術の開発と、県下の河川湖沼への放流・養殖向け種苗の効率的な生産を行っている。また、希少魚保護試験室では、絶滅が危惧されるミヤコタナゴ、ゼニタナゴ、ギバチ、ホトケドジョウ、カマキリ等の希少淡水魚を飼育し、保護増殖技術の開発・研究を行っている。屋外には、自然の川のように水流が作られた生態試験池があり、これにつながって3つの増殖池が設置され、ミヤコタナゴやゼニタナゴを自然に近い形で繁殖させている。またホトケドジョウ飼育用のピオトープが造られ、そこには、50種類を超える他の水生生物も住み着き湧水のある谷戸の生態系が復元されている。近年、内水面漁業が減退する一方、水辺自然環境の回復・保全が重要視されてきたのを受けて、研究の重点が種苗生産技術から希少魚の保護・増殖の方に移行されているのが伺われた。



魚類生態試験池にて

ミヤコタナゴについて

2

ミヤコタナゴは天然記念物に指定されており、神奈川県では野生絶滅種である。試験場では横浜のため池で奇跡的に生き残っていた鶴見川水系のミヤコタナゴを救出し継代育成している。ミヤコタナゴはドブガイ(淡水二枚貝)に産卵し、ドブガイは幼生時代にヨシノボリ類の鰓に寄生して成長するので、増殖するにはこれらが共に生息できる水環境を用意しなければならない。ドブガイを増やすのが難しく最も苦心したとの事であった。試験場のタナゴ池では毎年5000尾以上の稚魚がドブガイから浮上し再生産が順調に行われているようだ。

### メダカについて

3

メダカは、限られた生活圏の環境に適応した遺伝子型の異なる個体群が地域ごとに進化してきたが、今では純粋な地元産のメダカが殆ど見られなくなり、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。神奈川県では、南日本集団の東日本型に属する小田原メダカ(酒匂川水系)、藤沢メダカ(境川水系)、川崎メダカ(鶴見川水系)、三浦メダカ(小網代)等が科学的なお墨付きを受けて各地で保

護されている。試験場の保護試験室でもこれらを含め 6 系統のメダカが継代育成されていた。しかし自然な状態で生息地が残されているのは小田原と三浦のものだけだそうである。

**4** 絶滅危惧種「ミズガキ」の復元  
ミズガキという希少生物をご存知かな？ 河川等の水辺環境が荒廃し、姿を消していくのは、魚や水鳥だけではない。我々が子供の頃は大勢で川遊びをしたものだが、今では川から子供達の姿が消え元気な声も聞こえなくなった。今や絶滅危惧種と成り果てた「ミズガキ」一水辺で遊ぶ子供達一を川に呼び戻さなければならない。そのためにも希少淡水魚の保護・増殖に止まらず、次の段階として、これらが生息出来る自然環境(川と水域の緑)を復元し魚達をそこに戻してやる事が必要なのだと勝呂先生は力説された。とはいえ、事は一挙には成らない。そこで、小学校や公園に水辺ビオトープを造って、希少種のメダカやホトケドジョウを保護する仲間を増やし、地域・町の関心を高めつつある活動事例を紹介していただいた。(藤沢メダカの学校を作る会等)



**「真」** 光寺川に子供達を呼び戻す」ことは、清流にする会の目標の 1 つでもある。子供達が安心して川で遊べるようにゴミ掃除をする事も勿論必要だが、次の展開として、小学校等に水辺ビオトープを造り子供達と希少淡水魚の保護・増殖活動がやれないか、また湧水のある源流地帯でホトケドジョウのビオトープ造りができないものか・・・。今回の見学を通じ、視界が大きく広がってきたように感じたのは私だけではないと思う。(山岡 鐵也記)

**新会員の紹介** (敬称略)

清流にする会	久山 晃	能ヶ谷町(平和台)	昭和 40 年代から平和台に住まれ、真光寺川を見守ってこられました。
--------	------	-----------	------------------------------------

現在の会員数は家族会員も含めて、真光寺川を清流にする会：43名、真光寺川里親の会：110名、合計 153名となりました。

**『めだか基金』ポスト**

郵便振替で能ヶ谷の棚橋松江様から、お年玉として本町田の戸村公子様から、その他基金ポストへの寄付・一木会寄付などを合算して、1月は合計 7,263 円でした。有難うございます。

ご厚志を頂くに当って、ご負担をかけない様に「**印字済払込取扱票**」をポスト脇のファイルに入れてあります。「**赤インク印字の払込取扱票**」をご利用頂ければ、**手数料無料**でお振込みが出来ます。また**なるべく ATM での振込み**をご利用ください。どうかよろしくお願いたします。  
[郵便振替 『00150-4-574114』](mailto:00150-4-574114)  
[加入者名 『真光寺川里親の会』](#)

**私たちの行動基準**

- 1, 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
- 2, 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
- 3, 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

**3月例会は9日(第2日曜日)です**

- ☆ スケジュール **9:30 開戸親水場 集合**
- 09:30 開戸親水場～下堰親水場のオペレーション(クリーン作戦)
- 11:30 作戦会議(「いちょう会館」) 12:30 解散予定

**『 <http://www.shinkojigawa.com/> 』** ホームページへご意見ご感想をお寄せ下さい

『真光寺川 里親の会』会長：山口 拓郎 町田市鶴川 1-10-13 TEL/Fax 042-735-0382  
事務局：町田市広袴 3-24-11 山本隆治 TEL/Fax 042-736-0214 e-mail [ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp](mailto:ryuji.yamamoto@beach.ocn.ne.jp)